

地域で活躍する歯科医師の姿を見学して

地域歯科保健医療見学ツアーを通して

歯学科6年 高 津 彰 史

「訪問診療」という診療形態に普段馴染みのない私は、訪問診療とは“患者さんのご自宅に赴いて診療を行う”くらいの漠然としたイメージしか持っておらず、その実際や具体的な診療内容については全く理解していませんでした。そんな昨年の夏、地域歯科保健医療見学ツアーの話を耳にし、純粋な興味心から、新潟県歯科医師会の先生方の引率の元、佐渡コースの見学に参加しました。

私が訪問したのは、新潟県佐渡市相川のまもる歯科さんです。院長の渡部先生が、以前私たちに講義をしてくださっていたこともあり、佐渡コースの見学を希望しました。

先生から医院の説明をいただいた後、相川愛広苑で診療の見学をしました。医院のユニットで診療ができない以上、患者さんにできることが限られていますし、流動的に多くの患者さんを診なければいけないので、患者さん一人当たりの時間も少ないという訪問診療の実際を目の当たりにしました。それでも、「できることが限られているから仕方ない」ではなく、「できることが限られている中で最大限のことを行う」先生方の姿勢が非常に印象的で、その光景に強く胸を打たれました。私はこの日だけしか見学をしていませんが、それだけでわかるほどに先生方の動きは組織化・効率化されていて、且つ患者さん全員に寄り添いながら診療にあたっていたらいいなと思いました。これが一朝一夕にして成るものではないことは明らかでしたし、このような診療形態を確立するまでに、医院の方だけでなく、施設のスタッフの方々とも密に連携を取りながら、訪問診療をよりよい

ものにしてきたその過程まで目に見えてわかるようで、その部分でも非常に感銘を受けました。また、先生は、日々の診療に加え、口腔清掃状態を良好に保つための講演を定期的にされているそうです。先生のされている歯科治療や地域とのかかわりが、住民の生活の基盤の一端を担っている様子を、実際に見て学ぶことができました。

見学前に渡部先生が、まもる歯科さんが掲げるテーマの一つとして「インフラ歯科」をあげていらっしゃいました。これは、以前新潟大学でご講義いただいたときにも話されていたことでしたが、「インフラ歯科」とはどのようなものなのか、地域に根差した歯科治療とはどのようなものなのか、この見学を通して少し理解できたと思います。

見学ツアー全体を通しての感想として、私が一番強調したいのは、訪問診療にあたっている先生方の姿勢です。今の私たちは、外来ユニットでの診療しか知りませんし、大学での講義を通して、「歯科治療ってこういうものなのかな」というような漠然としたイメージが形成されつつある段階にあると思います。だからこそ、この見学ツアーを通して、“こういう形での患者さんのための歯科治療もある”と学べたことは、私にとって大きな財産ですし、ここで得た経験は、実際に行ってみないとわからない、絶対に経験したほうがいいと胸を張って言えるような、そんな素敵な経験でした。

このツアー自体は、昨年が初の試みだったそうですが、今年以降も開催される予定だと聞いています。臨床実習もあり、時間を作るのは簡単ではないかもしれませんが、この試みがもっと広がるといいなと心から思っています。

最後に、ツアーを開催してくださった新潟県歯科医師会の先生方、見学のお時間を作っていただいた渡部先生、お忙しい中本当にありがとうございます。

いました。今回のツアーで先生と患者さんとのかわり方を見て、私の目標、理想とする歯科医師像の輪郭が少し見えてきたような、そんな思いです。今の自分たちは、まだまだ一人前ではありません。しかし、今後の臨床実習における自分たちの日々の積み重ねが、自分たちを一人前にしてく

れるのだと思います。あと半年、臨床実習は続きます。どんな半年間になるかは、自分たちがその時間をどう過ごすか次第だと思います。今回のツアーで学んだこと、感じたことを胸に刻みながら、残りの臨床実習をより充実したものにできるよう、頑張っていきます。



院長の渡部先生との記念写真 筆者は右



実際の診療を見学している様子 筆者は左



地域歯科医療の魅力に触れて

歯学科6年 栗田大地

昨年8月、新潟県歯科医師会からのご案内を受け、地域歯科保健医療見学ツアーに参加しました。このツアーは、地域で歯科医療に携わる先生方の診療現場や活動を見学する機会であり、大学での学びとは異なる貴重な経験となりました。ツアーでの貴重な経験を多くの学生に知ってもらいたいと思い、原稿を書いています。

私が選択した上越コースでは、上越市で勤務されている2人の先生の診療を見学し、またお話を伺うことができました。

まず、上越市国民健康保険牧診療所で勤務されている杉田先生の診療を見学しました。先生は地域で唯一の歯科医師として、地域の方々から大きな信頼を寄せられています。診療室の中だけでなく、地域のイベントや介護施設を訪問して治療が必要な人を探したり、患者さんの方から先生を呼び止めるところを目にしました。先生の医療活動は、単なる治療だけでなく、患者さん1人1人の生活にまで寄り添って行われていると感じました。これは患者さんにとっては単に病気が治る以上の利益があり、医療者にとってもより良い医療を提供できるので、1つの理想的な医療の形だと思います。今後の臨床実習や研修において、患者とのコミュニケーションを重視し、治療後の生活を意識して接することで、より有意義な医療提供

ができるよう努めたいと感じました。

次に、安江たなか歯科で勤務されている安江先生の診療を見学しました。大学病院を経て地域で開業された先生は、地域のニーズに合わせた取り組みを行っており、地域への貢献活動も積極的に行っています。特に、地域の食事支援への取り組みや「カムカム弁当」の取り組みは、地域での医療と生活の結びつきを感じさせるものでした。「カムカム弁当」というのは先生が管理栄養士の方と献立を考えた弁当で、噛む機能の支援にも効果的ながらとても人気のお弁当だそうです。地域のニーズに合わせ、自分がやりたいこと、地域のためになれることを実践できることは、地域で開業する魅力の1つだと先生はおっしゃっていました。

このツアーを通じて、地域での歯科医療の魅力とやりがいを実感することができました。大学での学びとは異なる現場での経験は、今後の臨床実習で活かせるものや、将来を考える上で貴重なものでした。単なる治療だけでなく、患者さん1人1人の生活にフォーカスして接することは、地域歯科医療の魅力の1つであり、私は今後の歯科医師人生でぜひ実現していきたいと感じました。地域での診療や貢献活動は、患者さんとの信頼関係や地域社会への貢献が直接感じられる点が魅力であり、将来の働き方を考える際に重要な視点だと思います。今後の臨床実習、ひいては将来の働き方の参考とするため、ぜひツアーに参加してみたいと思います。



杉田先生が施設へ訪問診療している様子 筆者は左端



入所者さんの義歯を調整している様子